

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月1日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0173600933		
法人名	社会福祉法人 ふれんど		
事業所名	グループホームのどか		
所在地	〒059-1273 苫小牧市明徳町4丁目4番17号 (電話) 0144-67-8102		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成22年1月28日	評価確定日	平成22年3月1日

【情報提供票より】 (平成21年12月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)18年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 16人, 非常勤 1人, 常勤換算	16.2人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	12,000~17,000 円
敷金	有( ) 無( )		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 無( )	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 450 円
	夕食	550 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要 ( 1 月28 日現在 )

利用者人数	18 名	男性 1 名	女性 17 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名
要介護3	9 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83.3 歳	最低 74 歳	最高 95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 玄洋会 道央佐藤病院
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、高齢者複合施設として、ケアハウス、ショートステイ、デイサービスセンター、フレンドリーハウスと同じ敷地内に位置している。ほのぼのと安らぎのある生活を理念に一人一人を尊重し、その人らしく生活できるよう、法人及び系列の医療法人とも連携して、職員教育や日々暮らしの支援を行っている。また、事業所独自の自己評価表を作成し、日常の介護に活かしている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) その人らしい暮らしについて検討し、個々の思いを把握しながら支援を行っているが、日常的外出については、改善には至っていない。鍵をかけないケアについては、家族や運営推進会議等で話し合っているが、実践には至っていない。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員で評価に取り組み振り返ることで、気づきや改善につながっている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。会議では、家族代表、町内会代表、民生委員、地域包括支援センター職員、総合施設長、管理者で現況報告、行事案内、自己評価、外部評価等を話し合い、出された意見を地域行事や避難訓練等に活かしている。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の来訪時に、利用者の状況を報告し意見を聞くようにしている。また、苦情箱を設置している。家族会があり、のどかまつりやクリスマス会などに集まり、意見交換を行っている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入しており、町内の祭りなどに参加している。また、幼稚園の運動会や同じ敷地内のケアハウスなどで行う幼稚園児の発表会を見学している。</p>
重点項目④	

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「のどかにほのぼのと安らぎのある生活、一人一人を尊重し、その人らしく生活できるよう思いやりの心、常に相手の立場に立ち、地域の人々とのふれあいを大切に」という理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時に理念を復唱して、心に留めて日々のケアに活かしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、祭りなどに参加している。また、幼稚園の運動会や同じ敷地内のケアハウスなどで行う幼稚園児の発表会を見学している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で評価に取り組み、評価の意義を理解して振り返り、気づきや改善の機会となっている。事業所独自の自己評価表を作成し、介護の改善へとつながっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催している。会議では、利用者の状況や行事案内などを報告し、意見交換を行っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループ連絡会の研修会などに参加して、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に利用者の状況を報告している。また、「のどかだより」を年4回ユニットごとに発行し、家族に送付している。遠方の家族には電話や便り等で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会があり、のどかまつりやクリスマス会などに集まり、話し合いを行っている。また、苦情箱を設置しており、家族の意見を聞くように努めている。運営推進会議には、家族が代表として2名出席している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が異動する場合は、1～2ヶ月の交代期間を作って馴染みの関係づくりに努め、利用者のダメージを抑える配慮をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回、内部で認知症に関する研修を行っている。また、外部研修に参加した職員が伝達講習を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ連絡会や協議会の研修に参加し、交流を行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事業所の雰囲気を知るため、本人や家族が見学している。また、本人が訪問できない場合は、以前利用していたサービス先の情報を把握し、家族等と相談しながら徐々に馴染めるような工夫をしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の意思を尊重しながら、喜怒哀楽を共にし、支え合う関係を構築している。また、本人から学ぶことも多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン、アセスメントはセンター方式を用い、一人ひとりに寄り添いながら思いを把握するよう努めている。困難な場合は利用者の表情や仕草で判断している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスを行い、本人や家族の要望をなるべく取り入れた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員全員で1ヶ月に1回モニタリングを行い、その際、利用者の状況に変化があった場合は、現状に即した介護計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買物や受診の付き添いなど、事業所の多機能性を活かした支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医を受診している。また、提携医の往診も受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の指針を家族へ提示して、同意も得ている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを損ねるような声かけや対応をしないよう配慮している。また、個人情報も適切に取り扱っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、利用者の思いを把握しながら、居心地良く過ごせる工夫をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力に合わせて利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回を目処に、利用者の希望にできる限り沿った入浴支援を行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	編物など利用者の楽しみごとの支援をしている。また、週2回専門講師による音楽療法を行い、気晴らしとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な外出が少なく、ケアハウスに散歩に行く程度となっている。	○	施設内だけではなく、日常的な外出支援の工夫を期待したい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の施錠について家族、運営推進会議等で話し合っているが、開錠には至っていない。	○	開錠に向けた取り組みを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、昼夜間対応の避難訓練を消防署職員立会いの下、施設全体で行っている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録しており、一人ひとりに合った支援をしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭と廊下でユニットがつながっており、利用者お互い行き交うことができる。居間には天窓より明るい日差しが差し込み、温度、湿度管理も行っている。また、季節の共同作品、写真などを飾り、浴室には天然温泉を引いている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染みの物を持ち込み、家族の写真も置くなど、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

※  は、重点項目。